

第二百六十七話 プロパガンダポスターに見る日米差

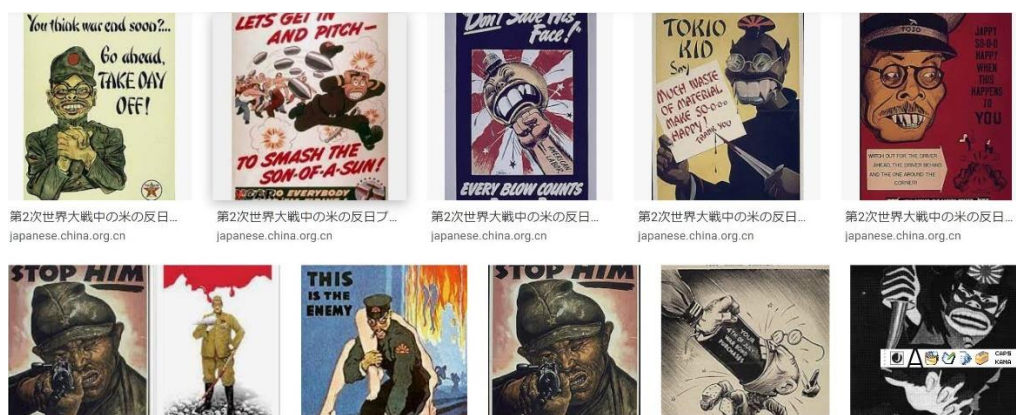
露ウ戦争が宣伝戦の様相を呈している。これこそが、近現代における戦争の実相である。大東亜戦争時における日米のプロパガンダを瞥見したい。日米間に差異があると言ったら言い過ぎか。(尚小生は親米主義者である。為念) (第二百十三話 関連)

1 戦時プロパガンダについて

戦争プロパガンダとは、敵(軍)の士気を挫き、自国民の団結心・戦時協力意欲を高め、自軍の士気を昂揚させ、世界に対し戦争の正統性を主張し同盟国を獲得する等の目的に合わせたプロパガンダである。対象によって、国内宣伝、対敵宣伝、国外宣伝に分類できる。大東亜戦時における主要なプロパガンダの手段には、新聞・ラジオ等のマスメディア、写真、ポスター等であろう。現在は更に多様化しているが、・・・

2 google 検索で確認し得る米国の反日プロパガンダ

画像検索結果の一部を示す。



如何に悪意に満ち、えげつないものであるかが察せられる。

3 日本の場合はどうだったのか？

同じく, google 画像検索結果の一部を示す。



手元にデザイン史家田島奈都子著「プロパガンダ、ポスターに見る日本の戦争 135 枚が映し出す真実」(勉誠出版)がある。氏は、長野県阿智村で確認された 135 枚のポスターを次のようにグルーピングしている。

- 募兵 ○戦時体制の強化 ○労働力の確保 ○女性と子供 ○戦費調達のための貯蓄
- 節約と供出 ○戦時期の長野県 ○傷兵・遺家族

*全てのポスターを比較していないので、確定的ではないが、日米のポスターには差異があるようだ。余裕のあるなし? 憎悪の程度の差? 民族性? それとも・・・